

「ホタルの里」を環境教育に！

～飛べ！ 走水小生まれのホタルたち～

横須賀市立走水小学校

1. 実践の内容

本校では、平成11年7月に当時の6年生が学校の近くにある横須賀市自然・人文博物館付属馬堀自然教育園でホタルの見学会をしたことをきっかけに、「ホタルの里」作りが始まった。場所は、法面工事のため更地に戻した校庭隅のスペースを活用した。6年生の児童・保護者そして、地域の方々の協働作業で土を掘ってブルーシートを敷き、走水水源の水を引き込んで水路を形作っていった。その「ホタルの里」も今年で13年目を迎える。平成22年度は延べ165匹のホタルを、今年度はホタルの幼虫とカワニナの放流を行わなかったにもかかわらず、延べ450匹を超えるホタルの舞を観察することが出来た。これは、本校の水路にホタルとカワニナが定着したことを意味している。「ホタルの里」作りは、平成12年度から実施することを学校として確認し、継続して取り組んできたが、現在は6年生を中心に水温・気温調べ、草刈りなどを行っている。また、2月には6年生から5年生への「ホタルの里」の引き継ぎも行い、児童の意識付けを図っている。

2. 実践の成果

「ホタルの里」が公立の小学校で13年間続き、また、平成13年からは毎年ホタルが飛んでいることが一番の成果であると感じている。「ホタルの里」の実践は、「総合的な学習の時間」としての積み重ねが大きな成果に結びついたものだが、環境教育としても大変意味のある活動と考えている。今後は多くの児童が何らかの形で継続的に「ホタルの里」に関わるような取り組みを検討していきたい。

3. 実践のポイント

これまで実践が続いてきたことは、教育指導計画の確かな位置づけと保護者・地域（ホタルの里を守る会）による、側面からの継続的な支援があったからであると考えている。



ブルーシートを活用した水路づくり



13年目を迎えた水路



5年生への引き継ぎ式



走水小のゲンジボタル